

技アリ!

いわての仕事録

はまぎくの花言葉に、 復興への決意を込めて



1 四季の花をあしらった館内のフラワー装飾は、東京の著名なフラワーデザイナーが手がけたもの。
2 地上6階建、客室63室で270人収容可能。片寄波で知られる浪板海岸を一望。
3 現在のホテルスタッフは46人。震災後に新規で採用された人が多くを占める。
4 ボランティアが植栽した「希望の花畑・絆」。年3回ほどの植え替えに全国各地からの支援者が訪れる。
5 震災後1階に設置された防災展示室。天皇御宿泊、大槌町の写真などが並ぶ。
6 震災後導入したジェットタイヤボイラー。廃タイヤを燃料にするため、従来と比べ8割の燃料コストを削減。ホテル導入例は珍しい。
7 この日も秋田からの被災地支援ツアー客が宿泊。笑顔で出迎え、ホテルと大槌のファンを増やしている。
8 10調理スタッフは6人。三陸産や旬の食材を使用。

【支援企業紹介】大槌町 三陸花ホテルはまぎく

震災で壊滅的被害を受けた大槌町の浪板観光ホテルが、昨年8月「三陸花ホテルはまぎく」として装い新たにスタート。震災で生まれた課題に悩む被災地で、復興のヒントを千代川茂社長に伺った。

【いわて産業振興センターに期待すること】
3年目を迎えた大槌町の企業復興には、税制や経済情報など制度面での情報提供が不可欠。また三陸と内陸の企業を結びつける異業種交流会などの「場」作りも期待する。

希望と追悼の気持ちを花にこめ 変わらず三陸の海辺に立つ宿

エントランスを抜けロビーに入ると、天井の中央に、こぼれ落ちんばかりの見事な花のシャンデリアがあった。見回すフロントやロビーのそこかしこにも色とりどりの花が美しく飾られ、ホテル全体にふんわりと温かな空気が満ち満ちている。

「花に託したのは、復興する地域への希望と、震災で亡くなった方への供養の思い。そして当ホテルが、ここ大槌の復興のシンボルになっていければとの願いも込めています」。

穏やかな浪板海岸を見下ろすホテルの一室で、三陸花ホテルはまぎくの

千代川茂社長が思いを語る。はまぎくの花言葉は『逆境に立ち向かう』。可憐な白花は千代川社長らホテルスタッフの決意と、復興に心を寄せる皇室との絆を象徴するものだ。

昭和48年、この地で海浜旅館を営んでいた父の跡を継ぎ、兄の山崎龍太郎社長(当時)と二人三脚で浪板観光ホテルを創業した千代川社長。観光客の宿泊、地元での冠婚葬祭にとホテルは利用され、平成9年には「全国豊かな海づくり大会」に出席された天皇后陛下もご宿泊。その時に海岸に咲くはまぎくを気に入られた美智子皇后へ、山崎前社長が種を送ったエピソードもよく知られている。

そんな順調な経営を一変させたの

が、東日本大震災だった。大津波はホテル3階の高さにまで押し寄せ、2階で被害点検をしていた千代川社長らを飲み込んだ。再び気付いた時にいた場所は、ホテル屋外のドラム缶の上。一緒に波に飲まれた兄の山崎前社長は、今も見つかっていない。

支援を支えに絶望から再開。 これからの旅行スタイルも探る

「あの時の大槌は、まるで戦争の跡地のようなだった…。津波と火災で壊滅した市街地とホテルの無惨な姿を見て、千代川社長が再開を諦めたのは無理もない。盟友でもあった兄、そして女将をつとめる妹も失い、一人での

経営は不可能に思えた。

再起を決意できたのは、地域産業復活のためのグループ補助金制度や、当センターの高度化資金が動き出したこと、そして皇室が被災地へ向けて発したメッセージだった。

「その時の画面に映ったのが、兄が18年前にお送りしたはまぎくの種でした。よし、新たな発想で再びホテルを作ろうと決めました」。目指すのは『復旧』ではなく『復興』との意志を込め、長年親しんだホテル名も変えての挑戦が始まった。金融機関との交渉や従業員の確保…。いくつものハードルを乗り越え、2年後の平成25年8月30日、三陸花ホテルはまぎくはオープンしたのである。

館内はもちろん、玄関前や中庭にも

花が溢れる同ホテル。外構の植栽は「花植えツアー」と称し、当地を訪れるボランティアが行ってくれたものだ。遠くは東京や名古屋から、震災当日宿泊していた秋田県五城目町の人々も桜の植樹に訪れた。「もはや風景や食だけで人は動かない。これからは体験や目的型の旅を考えていかないとダメ」と千代川社長は断言する。ホテル休業中に全国はおろかアジアへも出かけ旅のニーズを徹底調査、旅行者の視点でこれからのホテルの在り方を熟考した結論だ。

震災の風化と人口減少が進む被災地に、いかに人を呼び込むか。難しいテーマに取り組む同ホテルに、地域再生への期待と応援が寄せられている。

技アリ!ポイント
「人間観光」をテーマに魅力ある地域づくり
今はまだ震災特需。これからは大槌を訪れるボランティアやお客様と地域の人々が直に繋がって、町のファンを増やしていくことが重要です。ホテルを基点に、風景や食はもちろん、人も観光資源とする「人間観光」を進めています。

企業データ	会社名	株式会社浪板観光ホテル (三陸花ホテルはまぎく)	代表者	千代川茂
	本社	上閉伊郡大槌町浪板海岸	創業	昭和48年(1973)
	電話	0193-44-2111	従業員	46名
			業種	宿泊業



代表取締役社長
千代川茂